

## 第 56 回建築士会全国大会しまね大会紹介

### 2) 松江の近世建築

#### 1. 松江の武家屋敷

##### 松江城

しまね大会の会場は松江市内です。松江は江戸時代初頭に開かれた城下町です。それまでは江戸と同じように湿地の広がった、人が住むに適さない地でした。江戸幕府の開府後出雲・隠岐 22 万石の所領を与えられた堀尾茂助吉晴は、当初、現在の安来市にある広瀬の富田城を居城としました。そこは中世には尼子氏が居城としていた地です。しかし、人口増加や防衛上あるいは交通の利便性を考え、現在の松江を整備し、新たな城と町を作りました。1608 年(慶長 13)に完成した松江城は現在全国に残る近世の 12 城のうちの一つです。大きさは姫路城に次ぐもので、付櫓つき、石垣に囲まれた石蔵の上に 5 層の天守閣がそびえます。城の中に畳は全く敷かれていません。地階と最上階を除き、柱の多くは芯の柱の周囲に板状の柱を当てて鉄のバンドで留めるといふ、包板柱が使われています。戦国時代の雰囲気漂う天守をぜひ体験してください。



##### 武家屋敷



江戸時代の武士の屋敷もいくつか残っています。北堀町と呼ばれる、城の北側にまとまっていますが、一つは 400~500 石程度の番頭格であった中級武士の居宅。武家屋敷と呼ばれていますが、現在は松江市指定文化財となって公開されています。松江の古い建物の特徴の一つ、一般に使う瓦と流れが逆のいわゆる左棧瓦、そして棟に石を載せた、石棟に注意してください。武家屋敷の西隣

には、菊竹清則設計の田部美術館があり、その西隣にやはり江戸時代後期の武家屋敷である根岸家があります。ここは明治の文豪小泉八雲が下宿していたため、ヘルン旧居として呼び習わされ、公開されています。他に、城の東側には平成 24 年に開館した松江歴史館がありますが、敷地は江戸時代には松江藩の家老屋敷が建っていたところで、その長屋は江戸時代のものを補修して公開しています。

